

グリーフケアの検討について

(付議の要旨)

こころの健康づくりの取組みとして、身近で大切な人との死別等による大きな悲嘆（グリーフ）を抱えている人への支援について検討体制等をまとめたので報告する。

1 主旨

区では、自殺予防やがん対策などについて区内関係機関等と連携し、総合的に取組みを推進している。一方、そうした自殺やがんなどにより大切な人を亡くし、大きな悲嘆（グリーフ）を抱えている人に対する支援が課題となっている。

このことについて、区民が適切な相談・支援を受けられるようにするため、グリーフケアのあり方を検討するとともに、グリーフケアを実施する民間活動団体による支援モデル事業を実施することとしたので報告する。

2 グリーフケアの現状と課題

(1) 現状

自死遺族への支援は、国の自殺総合対策大綱によってその強化がうたわれ、各自治体で支援のための対策がとられている。また、民間団体により、子どもを亡くした親への支援や震災被害の子どもたちへの支援など、様々な活動が行われている。

区では、各種手続き等の窓口における対応マニュアルへの記載や個別相談での紹介など、喪失感情に配慮した対応や自死遺族支援団体に自殺対策協議会に参加いただくなど連携を図っている。

(2) 課題

グリーフケアに対する理解の不足や自治体の支援が十分行われていないため、次のような課題が生じている。

- ・死別によるグリーフを抱えケアが必要でありながら、支援の情報が得られない場合がある。
- ・グリーフによる苦しみが長期化することにより、地域から孤立し、自殺や精神疾患に至る場合がある。

3 グリーフケア検討の取組み（別紙1）

(1) (仮称) グリーフケア検討会

次のとおり検討会を設置し、グリーフに関する相談等のモデル事業の実施内容や区としての今後のグリーフケアのあり方について検討する。

- ① 構成員 学識経験者、グリーフケア活動団体等の関係機関 等
- ② 期 間 平成 26 年 7 月から平成 27 年 10 月（4 回程度）
- ③ 検討内容
 - ・グリーフケアの現状整理
 - ・モデル事業の実施内容（案）の検討
 - ・モデル事業の課題整理、評価、検証
 - ・区としてのグリーフケアのあり方検討

- ④ 評価 中間 平成 27 年 6 月
最終 平成 27 年 10 月

(2) モデル事業

上記検討会での意見を踏まえて内容を検討し、区民への支援を進めるため、自死遺族支援などグリーフケア活動に実績のある団体に対する補助によりモデル事業を実施する。

① 実施概要（案）

- ア グリーフケアの実施状況の整理
- イ グリーフケアに関する普及啓発（セミナー等による区民参加）
- ウ グリーフを抱えている人の相談・支援
- エ 活動団体のネットワークづくり

② 実施期間

平成 26 年 12 月から平成 28 年 3 月

③ 事業者選定

グリーフケアを実施している団体から公募により選定する。

④ 実施形態

区の補助事業として実施する。

(3) 庁内検討

関係所管課における庁内連絡会議を開催し、職員向けの周知を図るとともに、区民向けにグリーフケアの必要性や取り組みの周知・啓発方法を検討する。

4 予算

平成 26 年度当初予算額 2,220 千円（報償費、負担金補助及交付金）

5 今後のスケジュール

6 月 16 日 福祉保健常任委員会報告

【グリーフケアとは】

グリーフ（悲嘆）とは、大切な人やものを失った時をはじめ、人生にまつわる様々な喪失を悼む感情。別れの辛さや環境の大きな変化に戸惑い、傷ついていることから、こころの問題だけでなく身体への影響が現れることもある。グリーフに向き合うには、一人ひとりの状態に応じて、回復の過程を丁寧に進める必要がある。しかし、これまでは「自分で解決すべき問題」として、支援は充分ではなかった。日常生活がままならなくなったり、自分だけがこのような状態にあるという孤立感が少しでも軽くなるように支援すること、またはグリーフを抱えていること自体の分かち合いができるように支援すること、そして自分自身との向き合い方を手に入れるための支援をすることも含めてグリーフケアと言う。